

## 石炭・化石館 ほるる

炭坑夫

その妻

その娘

来訪者 1

来訪者 2 (1 の友人)

石炭・化石館。

昭和 10 年頃の炭住の生活が等身大の人形の展示で再現されている。

娘「父ちゃん、はい、弁当」

坑夫「おう。せつこ、ありがとな。じゃ、行って来っから」

娘「がんばってね」

妻「あんた、怪我しないようにね」

坑夫「ああ。大丈夫だ。気をつけてやって来っから」

誰もいない展示室で、等身大人形はこの再現を 2 度繰り返す。来訪者 1 と 2 が来る。

1 と 2、しばらく見ている。

すると、また、再現される。

4 度目が再生されたところで、来訪者 2 が去る。1 も後を追う。

誰もいなくなった展示室で、また、再現される。

クビナガリュウが宙に浮いて展示されているスペース。

来訪者 1 と 2 が来て、それを見ている。

来訪者 2 「フタバサウルス・スズキイ。中生代白亜紀 8500 年前」

来訪者 1 「あ、クビナガリュウのこと」

来訪者 2 は、そのスペースの壁から、床を走る線をたどっている。その線はその反対側の壁まで続いている。それは 35 億年前から現在までを表している。

来訪者 2 「え」

来訪者 1 「どうしたの」

来訪者 2 「あ。いや、なんか。これだけかと思って」

来訪者 1 「なにが」

来訪者 2 「人類の歴史。これだけよ、これだけ、この線の間」

来訪者 1 「へー」

来訪者 2 「あれが 46 億年前だって。」

来訪者 1 「どこが」

来訪者 2 「あっちの壁」

来訪者 1 「ああ」

来訪者 1、線をたどり 46 億年前にたどり着く。

来訪者 1 「あ、ここね」

来訪者 2 「そこそこ。そこが地球誕生」

来訪者 1、そこに書かれた説明を読む。

来訪者 1 「生命に溢れた星、地球は太陽系の一つの惑星として今から約 46 億年前に誕生しました。太陽からの距離や大きさなど、いくつもの奇跡的条件を満たし生命が誕生したのはその 10 億年後の 35 億年ほど前です。さらに私たちが生物であるとわかるような生物が現れたのは、約 6 億年前になってからです。地球誕生から生物の出現にいたるまでは、いかに長い時間が必要であったかがわかります」

来訪者 2 「いや、それにしてもさ、人類、短くない」

来訪者 1 「って言うか、人類誕生以前が長すぎでしょ」

来訪者 2 「う」

来訪者 1 「どした」

来訪者 2 「息が詰まる。あまりの途方もなさに。サハラ砂漠の砂粒みたいな人類に」

来訪者 1 「なるほど。そうね」

来訪者 2 「さっきの炭坑の生活も、ここじゃ、1 ミリにも満たないわ」

来訪者 1 「え」

来訪者 2 「だって、あれなんか、これっぽっちの昔でしかないってことでしょ」

来訪者 1 「まあ、その線に合わせて考えればそうだけど」

来訪者 2 「なんか、私、逆に勇気が湧いて来た」

来訪者 1 「なんでよ」

来訪者 2 「スティーブ・ジョブズとかグーグルとか、なんでも来いって感じになった」

来訪者 1 「よくわかんない」

二人、線の中央付近に集まる。

来訪者1 「これがクビナガリュウの時代だって。この赤の線」

来訪者2 「どこからどこまで？」

来訪者1 「ここからここまで」

来訪者1 と 2、その距離の間に立つ。

来訪者2 「わあ。クビナガリュウすごいね」

二人、クビナガリュウを見上げる。

来訪者2 「生命が誕生したのが」

来訪者1 「ここ、35 億年前」

来訪者2 「じゃ、その前ってなんなの」

来訪者1 「え、なんなのって」

来訪者2 「生命がないって、どういうこと」

来訪者1 「結構あるよ。その時代」

来訪者2 「わ。どうしょ」

来訪者1 「なに」

来訪者2 「言っではいけないこと言うよ」

来訪者1 「なにになに」

来訪者2 「この 46 億の先はなんなの」

来訪者1 「ああ。地球誕生の前ってこと」

来訪者2 「そう」

来訪者1 「それは、宇宙ってことかな」

来訪者2 「なんで」

来訪者1 「なんか」

来訪者2 「そこには時間という概念はあるの、ないの」

来訪者1 「ああ、もう、やめて」

来訪者2 「ちょっとあんた、今度はあっち行って来なさいよ」

来訪者1 「え、現在のほうへ？」

来訪者2「そうそう」

来訪者1、現在へ行く。現在に着く。

来訪者1「おーい」

来訪者2「おーい」

来訪者1「地球誕生から見た私はどう」

来訪者2「ま、普通だけど。あなたから見た地球誕生はどう」

来訪者1「うーん。どうかな」

来訪者2が笑うので。

来訪者1「え、なんだよ。せっかく現在まで来てあげたのに」

来訪者2「いや、私さ、さっき声がダメな男は嫌いって言ったでしょ」

来訪者1「うん」

来訪者2「ってことはさ、その人類のそこはさ、全体として、なんて言うか、声のいい、竹野内豊みたいないい男って気がする」

来訪者1「なんじゃそれ」

来訪者2「いや、われながらバカバカしい発想だけど。的はずしてない」

来訪者1「え、これ？ これだけ。いい男って」

来訪者2「そうそう」

来訪者1「つまり、ここからここまでが竹野内豊ってこと」

来訪者2「いや、そんなのおかしいでしょ」

来訪者1「ま、でも、ここがいい男なんですよ」

来訪者2「そうだけど」

来訪者1「じゃ、ここ以外はなに？ 有史以前の暗黒の時代？」

来訪者2「そうね。いい男がいなくてことだから」

やがて、また、クビナガリュウを見上げて。

来訪者1「ね、これって、オス、メス、どっち？」

来訪者2「さー」